

## 第47回卒業証書授与式 校長式辞

寒かった冬は次第に遠ざかり、日一日と暖かさを増し、藻岩の峰にも春の訪れを感じる今日の佳き日に、札幌市立真駒内曙中学校第47回卒業証書授与式を挙行できましたことは、深く喜びとするところであり、関係の皆様に厚くお礼申し上げます。

ただ今、85名の卒業生に卒業証書を渡しました。卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この卒業証書は、一枚の証書ですが、とても大きな意味を持っています。それは、中学校3年間の学びと成長がぎっしりつまった証であり、9年間の義務教育の課程を一つがなく修了した認証書です。どうぞ大切にして下さい。

また、この卒業証書を手にすることことができた皆さんのが喜びの陰には、今まで15年間、皆さんの健やかな成長を願い、育んでもらえたご両親やご家族をはじめ様々な人々の支えがあったことを忘れてはなりません。

素直な気持ちで感謝し、今日という日が、これから自分の生き方と、その決意を新たにする「旅立ちの日」であってほしいと願っております。

皆さんはとても中学生らしく充実した学校生活を送りました。

修学旅行、学校祭、合唱コンクールなどの行事、部活動や委員会活動など日々の活動に真剣に取り組む姿は素晴らしいものでした。そして3学期になり、受験に向けて学年全体がみんなで努力する引き締まった空気は、それぞれの自覚が見え、心から応援したい気持ちになりました。そして私は、廊下や授業で、そんな皆さんの笑顔や真剣な顔を見るのが大好きでした。

皆さんのが書いた「自分自身の自立について」の作文は、一人一人が将来についてよく考え、その時々に与えられた環境で「全力を尽くそう」という意欲に溢れたものでした。その力強い姿勢、皆さんの成長に感動を覚え、たくましさを感じました。

これからも、自分を見つめる機会を持続け、時には人の助けを借り、また、他の人を助けながら「自立した人生」を歩んでほしいと思います。

さてここで、皆さんの卒業のお祝いに、私が感銘

を受けた次の言葉を送ります。

「将来どんな政治的、経済的な状況が生じるか、私たちは誰も知らない。未来は、人々の不満、利益追求、闘争、そして今の私たちには想像もできない新たな経済的、政治的、社会的状況によって決まるだろう。けれども、たったひとつ確信を持って言えることがある。すべての厳しく険しい問題は、問題に取り組んでいくこうとする人々がいて、彼らにその問題を乗り越えるだけの能力と覚悟があれば、解決されるだろう、ということを。

この人たちは、親切で、友好的で、互いに尊重する心を持ち、人を助ける心構えができておらず、自分に与えられた課題を一生懸命やろうとする意志を持ち、人の犠牲になる覚悟があり、真摯で、嘘がなく、自己中心的でない人々でなければならぬ。そしてその人々の中に、不平を述べることなく、ほかの人よりもより一層働く覚悟のある者がいなくてはならないだろう。」

ペーター・ペーターゼン『小さなイエナプラン』  
(1927年刊) より

私は、皆さんにこのような人材になってほしいと思います。

旅立ちの時が近づいてきました。グランドに300年以上も立ち続けるハルニレの木は、皆さんの心の「ふるさと」として、いつまでも遠くから皆さんを応援しています。

令和2年 3月13日  
札幌市立真駒内曙中学校 校長 斎藤 裕香

## 卒業生答辭

通学路の雪も解け、藻岩山に残る雪がなんだか懐かしい景色のように感じます。冬を惜しむような寒さの中、少しずつ暖かい風が吹き始めている今日、私達は卒業の日を迎ました。本日は、私達のためにご準備くださった教職員の皆様、誠にありがとうございます。世間では新型コロナウイルスの影響で様々な式やイベントが中止になる学校も多い中、時間短縮という形ではありますが、卒業式という一生に一度の晴れ舞台を迎えたことを、大変嬉しく思います。

振り返れば、三年前。私達はまだ他人同士でしたね。見知らぬ顔立ちに、着慣れない制服、先輩方が